

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
教育目標：豊かな人間性を培い、主体的、創造的に自己実現をめざす、心身ともにたくましい生徒を育てる。 指導の重点： (1) 豊かな学力の定着と向上を図る。(基礎基本の定着と活用型の授業改善) (2) 豊かな心を育てる。(①絆づくり 一人ひとりが存在感と達成感をもてる集団づくり ②居場所づくり 安心して学べる環境『時を守り・場をきれいにし・礼をつくす』) (3) 将来に夢を持ち、自ら考え行動し、進路を切り拓く力を育てる。 (4) 小学校や地域との連携を進める。	<input type="checkbox"/> 学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 D 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】 <input type="checkbox"/> 家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A・数学Aについては、県平均と比べると正答率は同程度である。 ○国語B・数学B・理科については、県平均と比べると正答率は低い。 ○国語Aの「書くこと」の領域については、県平均を上回っているが、国語Bの「書くこと」の領域については県平均を下回っている。 ○国語AB、数学AB、理科について、県平均と比べると無回答率が高い。 県(2年) ○国語については、標準スコアを上回っておりさらに昨年よりも伸びている。 ○数学については、標準スコアを下回っているが、その差が昨年よりも縮んでいる。 ○英語については、標準スコアと同程度である。 県(1年) ○国語については、標準スコアと同程度である。 ○数学については、標準スコアと同程度である。	【学習状況調査の結果】 ○家庭学習時間については、1時間以上行っている生徒を県平均と比べると同程度であるが、2時間以上行っている生徒の割合は県平均より低い。 ○読書時間については、1日に30分以上している生徒の割合は県平均と比べると同程度である。 ○課外活動で地域のことを調べたり、地域の人の関わったりする機会があったについては、県平均・全国平均と比べるとともにかなり高い。 ○地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがあるについては、県平均・全国平均と比べるとともに高い。 ○数学では解答を言葉や数や式を使って説明する問題、理科では解答を文章で説明する問題において、最後まで解答を書こうと努力したについては、県平均と比べると低い。 ○テレビなどの1時間以上の視聴時間については、県平均と比べてかなり高い。 ○スマホの使用時間が1時間以上については、県平均と比べると2年生では低いが1年生ではかなり高い。 ○テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていたについては、肯定的な回答を県平均と比べると2年生では高く、1年生では低い。 ○携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていましたかについては、肯定的な回答を県平均と比べると2年生ではかなり高く、1年生では低い。 ○放課後などに学校で行われる補充学習(授業以外の学習)に参加していたについては、肯定的な回答を県平均と比べると2年生では高く、1年生ではかなり高い。

成果	課題
○授業規律の徹底を目指して取り組んでおり、「時間を守る」「服装を整える」ことができてきている。 ○校内研修が充実しており、教科指導の改善が進んでいる。 ○普通教室・特別教室には、「本時の目標」「まとめ」などの授業プレートを設置し、どの授業でも目標(めあて)やまとめを示すことを全教職員で共通理解実践している。その結果、授業で本時の目標やまとめが示されていると思っている生徒の割合が、県平均と比べるとかなり上回っている。 ○数年前より自由に学習プリントを取れる棚を設置し、その利用促進を図るなど環境を整えた結果、計画的に家庭学習を行っている生徒の割合が県平均より上回っている。 ○漢字練習や英語の自主学習ノートでの取り組みは、生徒の学習の土台作りとして機能しており、「書くこと」の基礎ができていく。	○家庭学習の時間が少ない。 ○最後まで解答を書こうと努力することが苦手であり、その影響から無解答率がかなり高い。 ○国語では文章での表現、数学では数・式を用いた表現や説明、英語では正しい語順に並べ替えて英作文をつくるなどに課題がある。 ○授業前着席やチャイムスタートがほぼできているが、教師主導であり内発的に実行できていない。また、学習規律について掲示されているものの十分な可視化が図れていない可能性があり、意識付けを図る工夫が必要である。 ○調査結果から、認められていると感じている生徒の割合が低く、それにより自分に自信が持てず学習意欲の低下を招いていると考えられる。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業改善	今年度末	全学年で、「授業がわかる」の割合を80%以上にする。	「めあて」「まとめ」の掲示の徹底とその内容の改善 生徒に「振り返り」の時間を確保し、文章表現の力を向上させるとともに、授業内容の定着を図る。					
自己肯定感・自己有用感を高めることで、学習意欲の向上につなげる。	2学期末	全国学力・学習調査での「自分には良いところがある」の項目のスコアを基準とし、それより5ポイント以上上げる。	生徒のよいところを積極的に見つけ、誉めたり認めたり励まし続けたりする。また、縦割りでTチャレに取り組み、上級生が下級生を教えることで互いの学力向上を図り、上級生の自己肯定感・有用感を高めるとともに下級生に対する思いやりも育成し、学業不振者に学習のきっかけをつくる機会とする。					
家庭学習の定着と充実	今年度末	家庭学習の時間が、1年生80分、2年生90分、3年生100分以上実施出来るようにする。その生徒の割合を70%以上にする。	自主学習ノートの好事例の貼り出しを行うなど、お手本を示す。 問題データベースを基に作成した課題プリントを、自分にあったものを自由に何枚でも持って帰れるシステムの充実を図る。 家庭学習のやり方をリニューアルして示す。 保護者連絡					

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中連携による授業公開を行い、授業や学習内容の研修を行うとともに、生徒・児童の情報交換を実施、情報を共有していく。 ○中学校区の小中の生徒指導の会、教務主任の会を学期に1回開催して、情報交換をするとともに学習環境の向上と学力向上を図る。 ○中1ギャップの解消に資する小中教職員の交流や研修の機会を設ける。 ○小中連携の日には津山市の3つの提案6つの取り組みをテーマに情報交換や話し合いを行っている。	○生活習慣の確立(就寝時間、起床時間、メディアコントロール)を家庭と協力していく。 ○人権について、学校・生徒会・PTAと協力して取り組み、安心できる学校づくりを目指す。 ○家庭学習・スマートフォンの使用について、便利などで呼びかけや啓発を図るとともに、懇談で個別に指導をしていく。